

げん き がくしゃ 「元輝学舎」せんだ通信 7

児童川柳 「陽だまりを めがけて走る 木の実たち」

「若かった 穂もみんな 母親に」

「衣替え 私のたんすも 森林も」

平成23年11月8日

～校長室だより～

まさに秋冷の季節、朝晩めっきり冷え、まちの風景だけでなく児童の服装の衣替えもすすんでいます。さまざまな形象をもつよき秋、子どもたちは、上記のような川柳を詠み、季節のよさを味わっているようです。

また、校舎の掲示板には、子どもたちが時間と心をこめて表現した図画や版画が。対峙したとき、何やらさまざまな声や音が聞こえてくるどれも力作ばかり。子どもたちの表現力ののびしろの大きさを感じ、おもわず「あ～すごいなあ」とつぶやく私が。



国語の時間や帯タイムの時間に、思いを素直に表現する子どもたち！

本校では、国語の時間だけでなく、さまざまな学習場面において「書く」活動を取り入れ、自分自身の思いや考えと対峙、自覚化させたり、書いたことを交流させ、学びを深めたりしています。加えて、感受力や想像力を醸成する取組の一環として、詩づくりなど表現活動にチャレンジさせています。文化芸術の秋、子どもたちは、この表現活動の楽しさをも享受しています。

例えば、3年生はこんな詩を・・・

「いちよう」

だいすきないちようの木
黄色いワンピースを着て おでかけです
歩いたたびボンが ひらひらひらひらと落ちてきた
だいすきないちようの木
はだかであるから マフラーかけてあげましょう

「きのこ」

ポヨン ポヨ～ン
わぁ～ きのこのトランポリン
すっこくフワフワ 乗ってみたいなあ～
ポヨン ポヨ～ン
わぁ～ きのこのがっしょうだ
ポヨヨン みんなで力をあわせてがっしょうだぁ～



秋の風景を心で豊かに感じとり、素直に表現したファンタジー作品です。物語性もあり表現技術の高さをも感じる叙事詩です、「すご～い」。

～中区青少年健全育成大会にて、6年生が『言葉のまほう』を発表！～

上記の大会において、6年生が「人とのつながりや絆を深めるために、私は言葉を大切にしていきたい」という思いを発表しました。

「たったひとことで、人は悲しい気持ちにもなります。だからこそ、言葉のまほうを使うのです」で始まった作文は、「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を使うことの大切さを伝えるとともに、自分が給食当番でおかずをこぼしてしまったときの体験を。それは友達が「大丈夫？。汁は私が拭いとくけえ、自分の服や靴を拭いとき～。ティッシュたりる？・・・」と声をかけてくれたことで心がとっても軽くなったことを経験し、ことばの大切さを再認識した児童は「人の心を明るくする言葉、言葉のまほうをみんなが使って明るい地域や社会が築ければと思います。みんな、み～んな笑顔になれるように」と作文を結んでいます。

心に深く響き共感する内容に、発表後、会場の方々から大きな拍手を受けました。